

空を飛びたい
どこまでも遠くへ鳥取は、空を飛ぶのに
最高のまち

果てしなく続く大空を、自由に飛びまわっている鳥たち。思ったことはありませんか。そんな夢を実現している「鳥取大学ハンググライダー部」のみなさんをご紹介します。部員数は女性4人、男性3人の計7人。学年、学科、出身地もさまざまです。

入学して間もないころ、「部員募集」の立て看板に張られ



左 加味根 あかりさん 右 砂原 孝美さん
Akari Kamine Takami Sunahara

ていたポスターの写真に魅せられ、入部した部長の加味根さんは、京都出身の獣医学科6年生。「広大な鳥取砂丘はどこまで行ってもぶつかるものがない、ハンググライダーの練習にはもってこいの場所です。一方、フライトポイントの霊石山も、日本海から吹き上げる風が上昇気流になるのでハンググライダーには絶好のエリア。どちらも大学からそう遠くないので、すぐ練習に行くことができます。こんなに恵まれた環境は日本全国で、鳥取だけ」と、加味根さ

鳥取大学
ハンググライダー部

自分の下に景色が
んの表情はいかにも幸せそう。

まったくの初心者だった加味根さんは、5年前の4月に入部後、砂丘で練習を繰り返して、その半年後の9月、霊石山での初フライトに挑戦しました。初めてのテイクオフはなかなか飛び出せなくて、「ちょっと待ってください」の連続。しかし、飛んでみると「自分の下に景色があるのが不思議。車がミニカーのようでした。この日見た夕日は、今で

も鮮明に思い出されます」と、当時はふり返ります。

また、小学生のときから空を飛びたいと思い続けていた砂原さんの初フライトは、テ「世界のみなさん、ありがとうっ！」と思わず叫んでいたとのこと。

ハンググライダーの魅力について2人にお聞きすると、「空を飛ぶってふつうの感覚じゃないですね。そのたびに風が違っていて、上昇気流を探しながら上空に上がっていくのですが、まさに風に